

水は誰のモノ？

公平と循環を両立するために

今、水道事業をはじめとする水ビジネスが大きな関心を集めています。水ビジネスに必要な「水」。この水は誰のモノ？費用負担と受益者は誰なのか？

適切な水ビジネスを実現するには、その土地に適した市場公共制度やビジネスモデルを考えなくてはなりません。本フォーラムでは「公平と循環を両立させる水文化」について広く討議してまいります。

2010年 **10月15日(金)**

13時30分～

会場

東京ウィメンズプラザ

東京都渋谷区神宮前5-53-67

◆地下鉄 銀座線、半蔵門線、千代田線

表参道駅下車 B2 出口

徒歩約7分

◆渋谷駅東口より都バス 渋谷88系統

「青山学院前」

バス停下車徒歩約2分

国連大学とオーバルビルの間を入り右のビル



参加申し込み・お問い合わせ

ミツカン水の文化センター

<http://www.mizu.gr.jp/>

本フォーラムへの参加申込は、当センターのホームページにて受け付けています。お問い合わせなどは、下記事務局までお願いいたします。

ミツカン水の文化センター事務局

〒104-0043 東京都中央区湊1-13-2 アリス・マナーガーデン11F

電話 03-3552-7504 (祝祭日を除く月～金 9:30～17:00)

プログラム等予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

問題提起

健全な地下水循環への取り組み 熊本の事例から



小嶋 一誠

おしま いっせい

前熊本県環境生活部水環境課課長

熊本県市町村合併推進室長、交通対策副総室長、行政経営課長、水環境課長を経て、現在、熊本県総務部市町村総室長。主な論文等に「熊本地域における地下水管理行政の現状」(地下水学会 2010)、「市町村合併の現状と課題について」(熊本を創る情報誌STEP 2005)、「市町村合併への取り組みについて」(自治フォーラム 2002) ほか。

日本と世界の水ビジネス 現状と将来



中村 吉明

なかむら よしあき

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 研究開発推進部長

1987年、通商産業省(現・経済産業省)入省。スタンフォード大学大学院、東京工業大学大学院修了後、経済産業省環境指導室長等を経て、2009年7月より現職。主な著書に「日本の水ビジネス」(東洋経済新報社 2010)。

途上国の水道事情 開発援助の現場から



橋本 和司

はしもと かずし

八千代エンジニアリング株式会社国際事業本部顧問

1978年、海外経済協力基金(OECF)に入行以降、総務部、開発企画部に勤務。国際協力銀行では、ワシントン次席駐在員、企業金融部次長、開発第2部長、開発セクター部長などを歴任。2008年10月の国際協力機構(JICA)とJBICの合併により、JICA上級審議役に就任。2009年より現職。

水資源は誰のモノ？ 水法の観点から



宮崎 淳

みやざき あつし

創価大学法学部教授

1993年創価大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学。創価大学助教授、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て、2007年より現職。専門は水法、民法。主な著書に「コンメンタール借地借家法(第3版)」(日本評論社 2010)、「レクチャー民法学 債権各論」(成文堂 2006) など。

討論

公平と循環を両立する 水事業と水文化とは

登壇者：小嶋一誠、中村吉明、橋本和司、宮崎 淳

コーディネーター：沖大幹



沖 大幹

おき たいかん

東京大学生産技術研究所教授

東京大学大学院工学系研究科修了。東京大学生産技術研究所講師・助教授を経て、2006年より現職。この間、アメリカ航空宇宙局NASAゴッダード研究所、内閣府総合科学技術会議事務局にも勤務。専門は地球水循環システム。監訳に「水の世界地図」(丸善出版 2006) など。

交流会

ご来場者のみなさまや登壇者との情報交流の場を設けます